



TITLE:

報告及び通信

AUTHOR(S):

CITATION:

報告及び通信. 天界 1931, 11(122): 315-318

ISSUE DATE:

1931-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161666>

RIGHT:

報告及び通信

天文同好會四月例会記事

4月26日、絶好の春日和、花山天文臺で例会を開く。會するもの近來にない多数で約80名、いつも静かな天文臺も今日ばかりは中々のにぎはひ。定刻2時半から山本先生の春の星座の講演始まる。いつもの例に圖書室に集まつたが、全くはちきれさうな盛會、春を代表する星座、大熊座の興味ある話、先生の神祕觀宗教觀もまじつて、天文學の趣味の極致の説明があり、續いて天文臺所藏の貴重な幻燈畫によつて、色々と星の運動、二重星、各種の星雲のお話があつた。この幻燈畫だけでも、多くの同好會員に見せたいものである。

講演後、會員はそれぞれ茶をのみながら、色々の希望や抱負の交換があり露臺で春の山科盆地を見ながら愉快的氣分を十分味はつた。

大根畑の白、菜の花畑の黄、それにうつくしい周圍の山の緑を一望の下に下界の騒々しさをはなれて、こゝは又實に静かな味はひのある春の天國である。

會後新しく設備された潜望鏡をかはるがはる使つて見た。圖書室に隣つた室に居ながら、この鏡の中に右の美しい春景色が手にとる様に見える。これも花山天文臺の一設備で、新しく名物が一つふえたわけである。

岡山の水野先生が前日から花山へ見え、7月のグラフィックの編輯について色々の御希望があつた。

構内で臺内の人々のテニスの音しきり、なんでも最近東京とテニス大會を開くとか、大舉優勝を希望する。

薄暮解散、楽しいつどひであつた。

倉敷の一夜

倉敷天文臺 荒 木 健 兒

去る3月11日夕、廣島(現在徳山)の觀測家長谷秋男君が來訪せられました。翌12日の夜はよく晴れてゐましたから觀測室を開きました。そして23^h30^m頃、牧夫座の α が黄と紫の美しい連星だから見やうと議一決、望遠鏡を東の空に向けたのですが、長谷君はどうしたわけか赤緯軸の目盛を合さうとせられず、熱心に東の方の空の一角を見つめてゐられます。私は全く不思議でありますから御たづねしますと、流星がしきりに飛ぶといふ御答です。そこで私もその部分を注意しましたが、一個の流星さへ見

えません。こうなりますと重大問題といふわけですが、盛にとびつゝある流星はその光度6等位の所謂微光流星であつたのです。銳眼の長谷君がとらへ得る流星も私の鑷詰製の眼ではとても見えません。

かくして、長谷君は約20分間に約70個の流星をとらへ、獵犬座 α 星附近、正しく申しますと、赤經200°、赤緯+36°の點にかなり面積の廣い輻射點を決定されました。徑路の極めて短いものは輻射點から東西北の三方面に主として飛び、徑路のやや長いものは北方北斗七星附近及び東北牧夫座に

多く見出したといふことであります。

昨年来からはかにやかましく論ぜられつつある微光流星もあれ程までとは思はなかつたのですが、長谷君に教へられまして得心しました。鏡眼自慢の會員諸君の奮起をのぞんでやみません。この方面の観測は非常に面白く且價值あるものと思ひます。

11日朝入手した「一七ジ クラシキツク」の電報を徳山局へ持込むと、局員が大いに

おどろき、天文時なるものの説明をしてやると、はじめて合點して打電してくれたさうですが、天文時の入つた電報はめづらしからうと思ひます。午前、午後の間違もなく誠に便宜であります。少くとも私達は實行したいもので、こんなことの宣傳も天界生のつとめではないでせうか。序ながら一挿話として御紹介申し上げます。

(1931. III. 20)

廣島支部だより

T O 生

昭和6年の新春を迎へた當支部は、さゝやか乍らも行進曲を奏でて居ります。

1月19日—19時より、本川小學校で廣島天文同好會の臨時總會とエロスの觀測會を催しました。集る者約30名、理科教室で一同机をかこんで會則第6條の從來會費不用を月10錢、學生半額と訂正の件に付き協議し原案通り決議されました。次に一般公開のエロス觀測會の日時、場所等の件に付き協議を致しました。

總會を終へて後、中村饒氏の「エロス」のお話を聞き、21時頃から屋上へ登つてエロスの觀測を致しました。割にシーイングが良く、獅子座のロオーの附近に居る珍客エロスを見て一同大はしやぎ。火星、木星、オリオンの星雲等も一同を喜ばしました。老人星カノープスは南天高く輝き初見參の人々が多くありました。23時近く名残りをおしみ乍ら散會致しました。

1月23日—第2回的小學校巡回觀測會を福島小學校で開きました。出席者は高等科の生徒約50名、先生10名、同好會員4名でありました。7センチで月、木星、火星、星雲、星團等を觀測した後、理科學室で細川

校長先生の御挨拶に續いて中村饒氏が幻燈應用で天文の話をして盛會裡に閉會致しました。私達の小さい働きがすこしでも小さい魂の糧になれば此の上も無い幸であります。

1月30日—公開のエロス觀測會の當日です。數日前より市内目拔の場所へ廣告を出し、各方面へ案内狀を發送して宣傳致しました。各新聞も競ふて書き立てて呉れました。その一つ二つをお目にかけませう。

30年目に接近する天界の珍客エロス小遊星の觀測會が廣島で行はれる。すなはち最近距離へ來ると言ふ30日の夕刻から一中南グラウンドへ望遠鏡を据へて彼女を始め、火星、木星、月その他の美しい姿を眺めやうと云ふ寸法。廣島天文同好會と京大天文臺天文同好會廣島支部の催しである。

——中國新聞——

接近して來た小遊星觀測會——廣島天文同好會主催で30日午後7時(雨天順延)から一中南グラウンドで30年目に接近する問題の小遊星エロス觀測會を催し他に火星、木星、月及びオリオン星雲の觀測を行ふと。

——大阪朝日——

市中の人氣は大變なもので寄るとさわる
と觀測會とエロスの話ばかりです。30日は
朝から天候が十分ではありません。夕方にな
ればなる程悪くなります。後には一降りあり
そうな氣配です。私達は氣が氣であります。
どうぞ晴れて呉れば良いかと祈り
心地です。

定刻の19時は來ました。熱心な人達は早
くから來てうらめしうに空をにらんで居
ります。空機様は悪くなる分でも良いはな
りません。情けない事です。神は祝福して
下さらないのか……………私達は涙をのんで
“曇天に付き晴夜に順延”のはり紙を出し
ました。5,60名の人達がつまらなそうな顔
をしてスゴスゴと歸つて行く後姿を見て氣
の毒でたまりませんでした。

31日一昨日にくらべて何んと言ふ變り様
でせう。とても良い天氣です。ハレルヤ!

氣の早い連中は18時頃から押寄せて來ま
す。グラウンドには“エロス觀測會場”と
大書した紙を張り出しました。

廣いグラウンドの中央近くへ14センチ、
12センチ、7センチ2機。計4つの屈折機を
ならべて觀測を開始致しました。

月、火星、木星、オリオン星雲等をすま
せて“エロス”を觀測致しました。

集る者約500名。私達の考へではどうし
ても1000—2000名位はと思つて居りました
が案外少くなかつたのには驚きました。た

ぶん昨夜がたたつたんでせう。ですが皆熱
心な人達でした。

23時過ぎに打ち切つて引き上げました。

會としては貧弱でも、市の一部分の人へ
ではありましたが“珍客エロス”を見
せる事が出來ましたのは私達の喜びであり
ます。

2月の例會は、私の病氣の爲め出來なかつ
たので非常にお氣の毒に存じて居ります。

3月31日—3月の例會を本川小學校で開き
ました。集る者約30名。今度は觀測なんぞ
は止めて活動寫眞を映寫致しました。東京
から借りた“宇宙の驚異”の内“太陽系の
話”“天體の進化と地球の未來”の2卷の外、
“スキーの仕方”“北陸地方の發電所”“瀧
山川發電所竣工式の實況”其他數卷を映寫
致しました。“太陽系の話”中プルートが
無かつたのには寂しさを感じました。“地
球の未來”の假想にはビクビクして居る人
もありました。

映寫は眞田氏、説明は私、間々にはレコ
ードをかけました。ベートベン、モツアル
ト、ハイドン、シユトラス、等のシンフォ
ニーや、エルマン、ジンバリストのグイオ
リンソロ等是一同の耳を喜ばしました。

23時過ぎて閉會し、雨上りの惡路を家路
につきました。

當夜は、尾道から宮本正太郎君がわざわざ來
廣されました。(31.4.3記)

天文寫眞エハガキ

キルソン山天文臺から送られた幻燈版をコロタイプ印刷にしたものです。

十枚一組、説明書付、送料共三十錢。

太陽コロナ、アンドロメ大星雲、分光太陽寫眞、オリオン大星雲、月、獵犬座
星雲、土星、キリン座星雲、ハレー彗星、ヘルクレス星團。

編輯室より

時の記念號が期日に遅れる様ではと、印刷所でも快速でやつて呉れたので、御安心下さい。この分ではどうやら面目が立ちそうです。面目と云へば申したい。本號には、獨立のパンフレットにでもしたい、シンクローム時計に關する 高城氏の 長文を 全部載せる事が出来ました。これは御承知の方もあつてせうが最も嶄新な天文時計で、本文は一寸得がたい文献です。生立ちや構造について平易に懇切に述べられてあるので誰にでも面白く讀まれる事と信じます。又古くして常に新しい時の問題、曆の改正は文明人の眞面目に考慮すべきもので、特に代表的のものを選んで二文を得ました。指導的立場にある天文ファンの見逃せぬものと思ひます。

以前から一部の讀者に天界は六ヶし過ぎると云ふ風な非難があつた様ですが近頃はどうか。いさゝか手前みそになつて恐入りますが、村上氏の星空の圖や、稻葉氏の解説、野尻氏の星座漫筆などは、他處では見られない味があるのではありませんか。それに二三號前から連載して居る中村氏の觀測帳は、實地天文學に於ける最近知識のエキスであり、幸に公開される事は一般讀者のみならず、専門家の喜びもさぞやと思はれます、何れも引續き御寄稿下さる筈ですからどうぞ御期待願ひます。

卷頭文を寄せられた垂井氏は、御承知の方もあつてせうが、京都市に於ける教育界の第一線に立つて、盛に活躍されて居る方で、古き會員の一人であり、又我が編輯室に於ける一異彩です。最後に恐多い事です、天智天皇は我等天文家にとり、特に忘れられぬ帝で、時の記念號の口繪には最も

ふさわしいものと信じて、御陵の御寫眞を掲げ、御遺徳を仰ぐよすがともいたしました。

主な題目を挙げただけでもこんなです。本號はやけに尨大になつたので會計の池田氏からは少からぬ小言をもらひましたが、まあいゝでせう。その代りと云つては申譯ありませんが、せいぜいお力をお貸し願つて會員を増し、會計を樂にし様ではありませんか。そちらさへうまく行けば雑誌の方は益々充實させ、興味深きものとして御満足の行く様に致します。

先月の初めには天文臺員總出で、東京天文臺を訪問しました。何れ誰れかの手で本誌にも紀行が發表される事でせうが、愉快的な旅でした。また下旬には以前の編輯主任であつた荒木先生と、本會の副會長であつた上田先生御夫妻が二ヶ年の御旅程を終へて無事御歸朝になりました。洋裝のつきぎし、斷髮の夫人と鼻下に美鬚を蓄へられた上田先生とは一寸見違へました。すつかり若返つた荒木先生は獨逸好みのバンドのブダブルのコートがすつきりと身に合つて天晴れ大學一のモダン振りです。これからは種々の機會で面白い多くの御土産談しが伺へる事と楽しみにして居ります。

「時を活かせ」之は昨年、天界の附録として配布したのですが、残部が少しあるので、御希望の方に無代進呈します。但し送料として二錢御送り願ひ度い。同書は昨年大阪の三越で開かれた、時の展覽會記念パンフレットとして、大阪毎日新聞社の編輯したもので、時、標準時計、天文台、其他時に關する事を廣く記載した四十頁餘のものであります。